



## 「音楽の力」でつながろう! 「“何か”はきっとできる」 世界の子どもたちの豊かないのちを願って、歌いませんか?

2004年、当時WVJで働いていた矢島志朗スタッフ（現在はキリスト者学生会（KGK）副総主事）が、ワールド・ビジョン創設者のボブ・ピアスの想い「“何か”はきっとできる」をメロディーにのせ、歌にしました。団体の理念やミッション、願いが込められているこの曲は、想いがあふれて涙がこぼれるスタッフもいるほど共感を呼び続け、ずっと歌い継がれてきました。「WVJを通して支援してくださるすべての方、そして、支援地域の子どもたちとも一緒に歌いたい!」。そんな願いを込めて、設立30周年を機に広くみなさまにご紹介するのはこびとなりました。世界が「音楽の力」でつながれたらなんて素敵だろう、と夢を膨らませながら、支援地域の子どもたちに英語版を紹介し始めています! 皆さんも、一緒に歌いませんか?

### “何か”はきっとできる

作詞・作曲：ワールド・ビジョン・ジャパン/矢島志朗

♩ = 78

**Intro.** G Gsus4 C/G G C/G

せ かい

**A** G C/G G F D7

の ど こ う か で し ず か に き え て ゆ く は か な  
の ゆ う き と す こ し の や さ し さ で ゆ た か

G C/G Em7 A Dsus4

い の ち に と も せ る ひ か り が あ る せ かい の  
な い の ち が せ かい に か が や き だ す

**B** G F#m7 B Em7 Dm7 G C G/B Am7 Bm7 C Dsus4

こ ど も た ち に き ぼう と え が お が あ ふ れ る よ う に わ た し に

G F#m7 B Em7 Em7/D C Dsus4

も な に か で き る ち い さ な わ た し に も

**Ending**

**Inter** 1. G Gsus4 G Dsus4 2. C G/B Am7 G

す こ し

©World Vision Japan



「“何か”はきっとできる」  
ページでこちらを  
ご用意しています!!

♪ 「“何か”はきっとできる」楽譜  
♪ 「“何か”はきっとできる」英語版 歌詞と楽譜  
♪ 音源（カラオケバージョン）  
♪ 子どもたちが歌っている様子（動画）

「“何か”はきっとできる」  
ページはこちら



チャイルド・スポンサーシップ  
募金のお申込みはこちら

電話でのお申込み

☎ 0120-465-009

WEB からの申込み

ワールド・ビジョン

World Vision News No.190 2018年3月発行 ワールド・ビジョンニュース

特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン

〒164-0012 東京都中野区本町 1-32-2 ハーモニータワー 3F TEL 03-5334-5351(平日9:30~17:00) FAX 03-5334-5359

dservice@worldvision.or.jp www.worldvision.jp

World Vision

この子を救う。未来を救う。

World Vision News No.190

World Vision

この子を救う。未来を救う。

World Vision News No.190

2018年3月 ワールド・ビジョンニュース

ありがとう! 30th Anniversary つながろう、子どもたちのために

ありがとう!  
30<sup>th</sup> Anniversary  
つながろう、  
子どもたちのために





# ありがとう! 30<sup>th</sup> Anniversary

## 75カ国の子どもたちに支援を届けてきました

これまでの歩みを支えてくださった皆さまへの感謝とともに、30年間の支援活動で可能となった成果を、ほんの一部ですがご紹介します。

40カ国で行われてきたチャイルド・スポンサーシップによる支援については、その変遷と成果をごちらのページにまとめました。ぜひご覧ください！

チャイルド・スポンサー 歩み



### タンザニア

#### チャイルド・スポンサーシップの長期支援、成果を実証

1996～2015年の20年間にわたるンゲレンゲレ地域開発プログラム(ADP)では教育環境が大きく改善。小学校を卒業した成人の割合は45.6%(1999年)から79.8%(2015年)へと向上し、息の長い粘り強い支援が、子どもたちの成長に対する地域住民の前向きな取組を促し、変革を生み出すことを証明しました。



支援開始当初の地域の学校の様子(左)と現在の様子(右)

#### 元チャイルドに聞いてみました！ ～支援が活かされています！～

ソフィアさん(インタビュー実施時22歳。写真左、黒いシャツの女性)  
プロフィール：支援により7年間の初等教育修了後、縫製の職業訓練を受け、2010年から仕立て屋を営業。6人兄弟の長女。



「1番嬉しかった支援は、1年間の縫製の職業訓練です。「子どもの権利」を学んだことも強く印象に残っていて、両方とも、今の生活に活かされています」

### バングラデシュ

#### 今も使われている井戸！

WVJが最初に支援を届けた国はバングラデシュでした。1988年の大洪水緊急支援、チャイルド・スポンサーシップの開始に加え、1989年には「愛の泉計画」をスタートし、2,358基の井戸の支援を実現。当時設置された井戸は今も使われています。1990年に支援し、現在も使われている井戸▶



### カンボジア

#### 緊急から自立支援まで

内戦から復興、開発の道を歩んでいるカンボジアの歴史とともに、WVJも歩んできました。1993年、国内避難民支援や地雷対策活動を本格化。その後、復興のニーズに応える保健・教育支援などを行い、1996年からチャイルド・スポンサーシップによる支援を開始しました。昨年11月には、WVカンボジアのレイ・シネットスタッフが来日して支援の成果を報告。内戦の影響が残る農村部で成長した彼自身の体験も共有され、「緊急から自立支援まで」を体現しているWVのカンボジア支援の歴史を感じさせました。(p.14をご覧ください)



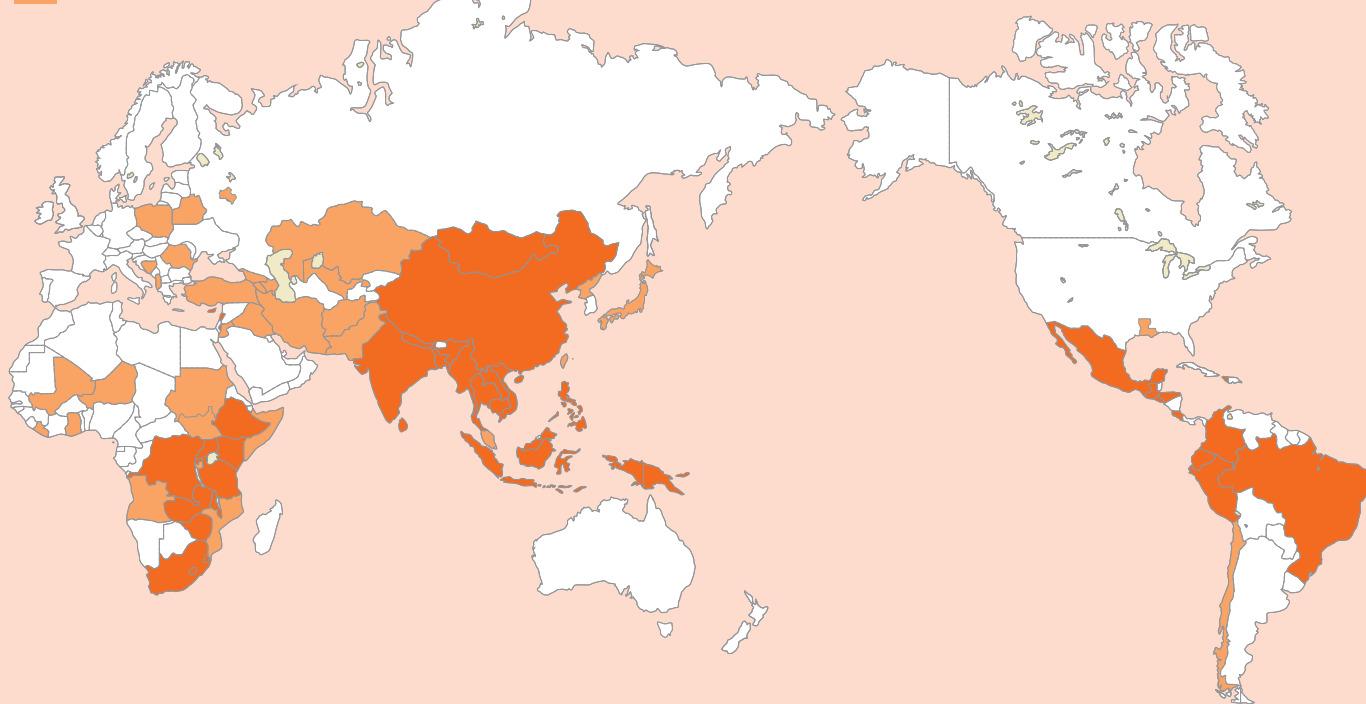
内戦終了後の1993年、国連監視下の総選挙後カンボジア入りした片山スタッフ(現 常務執行役員)



内戦後、復興とともに成長したシネットスタッフと、現在のチャイルド・スポンサーシップによる支援地域の子どもたち

チャイルド・スポンサーシップによる支援実績がある国

支援実績がある国・地域



#### 数字でみるWVJ30年の成長

	1988年度		2017年度
スタッフ数	4人	▶	84人
支援国数	7カ国	▶	30カ国
日本からのスポンサーがいるチャイルド数	438人	▶	56,812人
収入金額	9,899万円	▶	47億5,559万円

### 日本

#### 世界での経験が活かされた緊急支援

日本での大地震に際し、世界各地での支援経験を活かして緊急復興支援を実施してきました。特に、東日本大震災の時には、日本の皆さまはもちろん、世界各国のワールド・ビジョンからも応援が届き、3年間で約30万人に支援を届けました。



大地震で突然「日常」を失った子どもの心のケアを目的に運営されたチャイルド・フレンドリー・スペース(宮城県登米市)

### タイ

#### グローバル経済への挑戦とともに

スリン地域開発プログラム(ADP)(1997～2007年)は、アジア通貨危機を背景に、グローバル経済に翻弄されない住民組織力の強化を目指しました。支援終了から5年後に行った調査では、60.1%の地域住民が支援前と比べ生活状況が良くなっていると回答。「良くなった」と感じる理由のトップ(37.3%)は地域が互いに助け合うシステムが組織強化により整ったこと、でした。支援終了後も生計向上・貯蓄グループの多くが活動を継続し、農協組合員も増加(5年間で761人→830人)していることから、住民組織の強化という支援の成果が実り、発展を遂げていることが確認されています。



支援終了後も発展を遂げている農協のメンバーと今西スタッフ(右から2番目)

#### 30周年に寄せて - 感謝とともにさらなる挑戦へ -

戦後、豊かになった日本から途上国の子どもたちのためにできることがあるはず、という思いから誕生したワールド・ビジョン・ジャパンは、2017年10月、設立30周年を迎えました。これまでの歩みを支えてくださったお一人おひとりに心から感謝申し上げます。この30年で、世界の子どもたちを取り巻く環境が改善した部分もあります。しかし今、難民の数は戦後最悪の水準に達し、その半数以上は子どもです。子どもへの暴力も深刻です。WVJは、もっとも弱い立場にある子どもたちにより多くの支援を届けるため、これまでの経験と学びを活かしつつ、更なる挑戦への決意を新たにして、歩んでまいります。これからも、みなさまのご理解とご支援が何にも代えて、私たちの原動力になります。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。



ワールド・ビジョン・ジャパン 事務局長

木内 真理子



# ワールド・ビジョン・ジャパン 30年の歴史

“何もかも”はできなくとも“何か”はきっとできる



「愛の泉計画」による  
井戸建設支援事業（バングラデシュ）



ブラジルでの地域開発。300人の子どものケアする施設。



子どもを抱く羽鳥初代理事長



ソマリア難民支援



ルワンダ内戦後、支援により家族と  
再会できた子どもたち



インドネシアのミンガ地域開発プログラム。  
図書館で本を読む子どもたち



ボスニア・ヘルツェゴビナ紛争後の  
難民帰還民支援



阪神・淡路大震災



黒柳朝さんとフィリピンの子どもたち

世界での活動

1988年  
チャイルド・スポンサーシップ  
による支援をバングラデシュ  
で開始



新川元スタッフと  
バングラデシュの子どもたち

1990年  
初の駐在員、新川代利子  
（現理事）をバングラデ  
シュへ派遣

1990年  
内戦中の  
カンボジアへ  
支援を開始

1991年  
イラク、ヨルダン等で湾岸  
戦争による被災者支援

1994年  
ルワンダ難民支援

1992年  
ブランド・ファミン（愛の飢餓体験  
募金）でソマリア難民支援

1992年  
郵政省国際ボランティア貯金初交付  
（フィリピン／ピナツポ噴火被災者支援）

1995年  
WVJがチャイルド・スポンサー  
シップで支援する支援地域が初め  
て終了（バングラデシュ）

1996年  
外務省草の根無償資金協  
力が初交付（カンボジア  
小学校総合整備事業）

1998年  
国連機関と初の協働でボスニア紛争  
による難民帰還民支援



エルサルバドルのヌエバ地域開  
発プログラム。チャイルド・ス  
ポンサーにクリスマス・カード  
を書く子どもたち

1999年  
ヤマザキビスコ（株）より、リッツ  
クラッカー 1,300 カートン提供、  
コソボへ緊急食糧支援

1999年  
ケニアとタンザニアの難民キャンプ  
で10万枚のTシャツを配布  
（'99 ファミン）



タンザニアの難民キャンプにて  
配布されたTシャツを着た男の子

2001年  
インド・グジャラート大震災  
緊急支援

2002年  
アフガニスタン緊急援助

1987 1988 1989 1990 1991 1992 1993 1994 1995 1996 1997 1998 1999 2000 2001 2002

チャイルド・  
スポンサー  
1万人

支援国数  
24カ国  
10周年

日本での活動

1987年  
10月19日  
ワールド・ビジョン・  
ジャパン開設式

1988年  
理事・新総裁就任式。  
（理事長に羽鳥明ほか理事7  
名、新総裁に峯野龍弘就任）

1988年  
ラブ・ローフ  
募金開始  
（現在まで継続）



「愛の泉」チャリティコンサートで  
毎年設置されるラブ・ローフ募金箱

1990年  
「バングラデシュ支援『愛の  
泉』チャリティ・コンサート」  
開催開始

1990年  
黒柳朝さんが親善大使に就任

1991年  
山崎製パン（株）より第1回  
山崎ラブ・ローフ募金とし  
て10,865,777円の贈呈を  
受ける（以後毎年）

1993年  
ラブ・ローフ募金の新聞  
広告「このパンは、子  
どもたちを救う。」が第34  
回「消費者のためになっ  
た広告コンクール」銅賞  
に入賞

1994年  
ジュディ・オングさんが  
親善大使に就任

1995年  
阪神・淡路大震災救援活動  
（1996年度末まで）

1995年7月～9月  
'95ファミン30開催



ファミン30 沖縄大会の様子

1996年  
黒柳朝さん講演会開催

1997年  
国際協力NGOセンター  
（JANIC）に加盟

1999年  
特定非営利活動法人として  
認証、登記完了



第5回「愛の泉」チャリティコンサートによる  
ラオス復興支援（水瓶150個配布の様子）

2000年  
片山信彦が事務局長に就任

2001年  
ワールド・ビジョン版「子ども  
の権利条約」作成

2002年  
国税庁より認定  
NPO法人として  
認定





私たちのビジョンは、すべての子どもに豊かないのちを  
私たちの祈りは、すべての人の心 にこのビジョンを実現する意志を

スマトラ沖地震・津波緊急支援  
学用品を子どもたちに配布

イラクにて緊急支援、物資配布

新潟県中越地震被災者支援

「教科書にのっていないアフリカ」を  
体験中のジュディ・オングさん

東日本大震災緊急復興支援。  
学校再開支援の一環でスクールバスを支援

フィリピン台風緊急支援

ネパール大地震発生直後に現地入りし、  
物資支援を実施

アフガニスタンで建設した学校を訪問した  
片山スタッフ（現常務執行役員）

イラン南東部地震緊急支援

ハイチ大地震緊急援助

ウガンダのカサウォ地域開発プログラム終了

シリア難民緊急支援。  
毛布を受け取って嬉しそうにする女の子

熊本地震緊急支援。子どもたちが安心して遊べる  
チャイルド・フレンドリー・スペースを  
避難所内で運営

2003 年  
91万着の衣料品をタン  
ザニア / ケニアの難民  
キャンプで配布

2003 年  
南部アフリカへ緊急食糧支援

2003 年  
イラクで緊急復興支援

2003 年  
スリランカ国内避難民  
支援

2004 年  
イラン南東部地震緊急支援

2004 年  
リベリアで食糧・農具支援

2004 年  
スマトラ沖地震・津波緊急援助

2006 年  
南北スーダン内戦後の難民の帰還支援開始



リベリア食糧・農具支援。  
地域の子どもたち



スーダン内戦後の難民帰還支援

2010 年  
ハイチ大地震  
緊急人道支援

2011 年  
南スーダン共和国独  
立。「平和の定着」を  
めざした支援実施

2011 年  
メコン拡大地域 6 カ国  
で 5 年間にわたる人身  
取引対策事業開始

2012 年  
シリア難民緊急支援開始

2013 年  
東ティモールでの水・  
衛生環境改善事業を継  
続・拡大

2013 年  
フィリピン台風緊急支援

2015 年  
ネパール大地震緊急復興支援

2015 年  
ルワンダで JICA 草の根  
技術協力による事業開始

2016 年  
エチオピアで妊産  
婦・新生児の健康  
改善事業開始

2017 年  
G7 タオルミナサミットに  
向けてシェルパと政策対話

2017 年  
ネパール防災事業開始

2017 年  
カンボジアで母子保健事業開始

2017 年  
南スーダンで  
栄養支援事業  
開始



2003

2004

2005

2 万人

2006

2007

3 万人

2008

20 周年

4 万人

2009

2010

5 万人

2011

2012

2013

2014

2015

2016

2017

2018

30 周年

2003 年  
「難民キャンプにきれいな古着を  
送ろう」キャンペーン

2004 年  
新潟県中越地震  
被災者支援



2005 年  
「ほっとけない世界の貧  
しさキャンペーン」参加

2007 年  
G8 ドイツ サ  
ミットに向けて  
政策提言書を外  
務省に提出

2007 年  
酒井美紀さんが親善大使  
に就任、インドに訪問

2007 年  
体験型イベント「教科書にのっ  
ていないアフリカ」開催



2008 年  
絵本「この子を救えるのはわたしかも  
しれない」小学館から出版

2008 年  
G8 洞爺湖サミットに向けアドボカ  
シー「2008 年 G8 サミット NGO  
フォーラム」と連携して 34,000 件  
の署名を福田首相（当時）に提出

2008 年  
第 5 回アフリカ開発会議 (TICADV) に参加

2009 年  
「Child Health Now」  
アドボカシーキャンペーン開始

2010 年  
ラブ・ケーキ  
プロジェクト  
開始



2010 年  
JAXA 宇宙飛行士 野口聡  
一さんをゲストに迎えた  
WVカフェを東京で開催

2011 年  
東日本大震災緊急  
復興支援を開始

2012 年  
東日本大震災被災地の小中学生  
を対象とした奨学金事業実施  
（日本ユネスコ協会連盟と協働）

2013 年  
IMF・世界銀行年次総  
会で保健分野の政策提  
言書提出

2013 年  
東日本復興支援のため、日本 NPO  
センターと協働で「NPO 育成・強  
化プロジェクト」実施



2016 年  
G7 伊勢志摩サミッ  
トに向けアドボカ  
シー活動実施

2016 年  
熊本地震緊急支援

2016 年  
福島子ども支援事業開始

2017 年  
「高校生による国会議員  
のための世界一大きな  
授業 2017」に参加

2017 年  
事務局長交代（片山信  
彦から木内真理子へ）



## どんな想いで支援しているのですか？

## 親善大使

**ジュディ・オングさん**  
歌手・女優・木版画家

私が身体を壊した時、たくさんの方の「想い」によって元気を取り戻しました。「想い」は世界をつないでくれます。WVJ で支援を始めたのも、そんな中で「何かできないか」と思っていた頃でした。人間というのは、どこまであれば幸せなのか、と思います。「これがあれば幸せ」って、ありますよね。それ以上の幸せを、私は「幸せのボーナス」と呼んでいます。私たちにとっての一部が、支援となり世界の子どものたちの幸せに変わります。これからも、子どもたちの可能性を開くために、ともに歩んでいきたいと思っています。

気仙沼の避難所で衣料品を手渡す  
ジュディさん（2011年）**酒井 美紀さん**  
女優

2007年にインド、2017年はフィリピンの支援地を訪問しました。たくさん笑顔の子どもたちが寄ってきてくれたり、「スポンサーさんからこれもらったんだよ！」と話してくれる子どももいて、日本のみなさんが支援してくださっていることが、確実につながっている、と実感し、非常に嬉しく思いました。このような活動は、行動を起こせばすぐに変わる、というのではなく、根気のいる、時間のかかることですが、まだまだ必要があると実感しています。これからも微力ですが、がんばりたいと思います。

フィリピンのチャイルド、  
サンドリアンさんと（2017年）

## セレブリティ・サポーター

**伊東 勤さん**  
前千葉ロッテマリーンズ  
監督

私が微力ながらチャイルド・スポンサーとして支援を始めてから20数年が経ちました。支援開始当時は選手だった私も引退し、2球団の監督を務めさせて頂きましたが、いつも心の底にチャイルドへの思いがあり、その成長が自分の子どもの事のように嬉しく、また支えになっています。これからも一人でも多くの子どもたちが幸せに暮らせるようお願い、協力させて頂きたいと思います。

**東尾 理子さん**  
プロゴルファー

まとまな食事や、水さえも手に入らないような厳しい現実を生きている子どもたちが世界には多くいて、私にできることがあればとチャイルド・スポンサーを始めました。子どもたちとの手紙のやりとりは、世界中の人達のことを、自分の子どもに話さきっかけにもなっています。貧困に苦しむ子どもたちのために、自分ができることをこれからもコツコツ続けていきたいです。

**前澤 友作さん**  
株式会社スタートトゥデイ  
代表取締役社長  
※日本最大級のファッション通販  
サイト「ZOZOTOWN」運営

「誰かのために、自分にできることはないか」と考えていたときに、WVJ の方の熱意や想いに共感して支援を始めて、早10年が経ちました。僕の夢は世界を平和にすることです。「世界中をカッコよく、世界中に笑顔を。」これは当社の企業理念であり、僕の夢でもあります。自分の力で少しでも世界に幸せな人を増やせるなら、できることは何でもしたいと考えています。何でもいから誰かのためになることをしてみる。自分の時間、経験、お金を自分以外の人のために注ぎ、その対価として「ありがとう」の想いが返ってくる。そんな感謝の連鎖が広がっていくことを願っています。

**松本 莉緒さん**  
女優

同じ地球、同じ時間に生きてる人として、「自分たちだけ幸せであればいい」という考えには少し悲しさを感じます。チャイルド・スポンサーシップは、物やお金を渡せばいいということではなく、目に見えない＜繋がりが＞という幸せを感じ合うことが出来ます。実際にチャイルドを訪問し、与える事を喜びに変えられた時に、自分自身の心の成長を強く感じました。そしてそれは今の人生に生きていると思います。

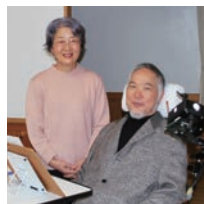
**木暮 太一さん**  
作家・経済コメンテーター

世界を見渡すと、ぼくらが当たり前に過ごしてきた幼少期の環境が、「当たり前」ではないことに気づかされます。知らない間に自分の世界と視野が狭くなっていることを、今回改めて感じました。ぼくらが何気なく使っているちょっとしたお金で、子どもとその家族を支えることができる。子どもたちが学校に通い、現状を変えることができる。人生を変えることだってできる。これって、すごいことだと思ふんです。いま、定期的に支援している子たちと文通をしています。本当に毎回楽しい。もしかしたら、元気をもらっているのは、ぼくら大人の方かもしれませんね。

**駒崎 弘樹さん**  
認定NPO法人フローレンス  
代表理事

認定NPO法人フローレンスは、国内の親子の課題を解決し、未来には当たり前のセーフティネットを、今ここに生み出すNPOです。一方、国内だけで手いっぱい、海外の弱い立場の子どもたちの支えになることは、できていません。ワールド・ビジョンさんに、海外の子どもたちを助けて頂くことを応援することで、結果として世界中の子どもたちを支えられたら、と思っています。共に頑張りましょう。子どもたちのために。未来のために。

芸能・文化・スポーツ・ビジネス・教育・教会など様々な世界で活躍される方が、チャイルド・スポンサーとしてWVJの支援の輪に加わってくださっています。また、WVJが主催するキャンペーンや広報イベントなどにも、多くの方々にご協力をいただいています。このたび、設立30周年を記念してメッセージをお寄せいただきましたのでご紹介します！

**星野 富弘さん**  
詩人・画家

子どもたちからの手紙の中には、必ず兄弟や家族のことが書いてあります。兄弟や家族のことを思うのは「いいなあ～」と思います。そして、将来については、「先生になりたい」「医者になりたい」と大きな希望を持っています。とにかく、夢を捨てずに、そこに向かってほしい。そのためにも、私たち大人がしっかりとした考えを持っていないといけないと思います。私たちが希望を持って生きたいと思います。そして、子どもたちが夢を実現できるように、少しでも手助けできるような支援をしていければと思います。

**宮川 彬良さん**  
作曲家

命の夢を観たことがあります。その命は僕の手のひらの上でどんどん小さくなり、しまいには、指と指の三角のすき間から粉のように落ちて消えてしまう夢でした。こんなに自由に世界が交流できる時代なのに…相変わらず僕たち人間は愚かなままなんじゃないか…いいや、そんなはずはない！ぼくはワールド・ビジョンの活動を心から応援しています。

## 企業



## 玉の肌石鯨株式会社

団体設立当初から、世界の子どもたちのための支援を続けてきました。石鯨を作る会社として、WVJに関わる皆さまに“何か”できればと、30周年記念石鯨の寄贈を行いました。これからも、より多くの子どもたちへ希望が届けられるよう、支援を続けていきます。



## 株式会社ダッドウェイ

育児用品を企画・輸入・販売する弊社も創業から25年、2人のチャイルド支援を始めて10年がたちました。私たちは「愚直に丁寧に」という言葉を大切にしています。子どもたちのために、継続と温かいつながりの輪が世界中に広がることを祈り、私たちも微力ながら取り組んでまいります。



## ヨシリツ株式会社

当社は、LaQという教育玩具のメーカーで、日本を中心に世界28カ国で商品を販売しています。輸出先の主な地域は、裕福な先進国が中心ですので、色々な環境の子どもたちと関わりを持ちたいという想いから、チャイルド・スポンサーシップを通して支援をしています。世界の子どもたちが、等しく豊かに、健全に生活できるようになることを祈念して、お祝いのメッセージとさせていただきます。



## アース製薬株式会社

当社が事業展開をしている東南アジアの子どもたちへチャイルド・スポンサーシップを通じて支援しています。「生命と暮らしに寄り添い、地球との共生を実現する。」の経営理念のもと、一人でも多くの子どもたちに幸せを届けられるよう、今後も支援を継続してまいります。

## 各種団体（教育機関・教会）

**日本基督教団  
鴨島兄弟教会**

チャイルド・スポンサーシップに参加したのは約23年前。世界には厳しい環境での暮らしを強いられている子どもが大勢いることを知り、その子どもたちに思いを寄せ、少しでもお役にたてたら、との思いからでした。その10年後、教会のバザーの収益金でチャイルドをもう1人支援するようになりました。子どもたちや地域の必要のために献金が有効に用いられていることが、手紙や写真を通してよく分かり、とても嬉しく、感謝しています。

**日本同盟基督教団  
衣笠中央キリスト教会**

30年以上前、当教会にチャイルド・スポンサーシップの案内が届き、婦人会で希望者を募り、1人300円で1人の子どものチャイルド・スポンサーになりました。その後、希望者が増加し、支える子どもの数も増え、今では3人の子どものチャイルド・スポンサーとして支援しています。捧げる教会の理念のもと、これまでの活動を祝してくださった神様に感謝です。

**学校法人大阪信愛女学院  
大阪信愛女学院小学校**

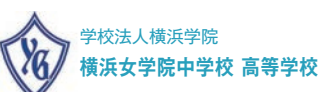
貧困や紛争などによって恵まれない環境にある子ども達への思いやりの心を、児童が目に見える形で表現できる活動としてチャイルド・スポンサーを始め、15年以上が経ちます。豊かな生活を送れる喜びに感謝して、お手伝いや我慢に励み、一人でも多くの子どもの「えがお」のために支援を続けて参ります。

**学校法人捜真学院  
捜真小学校**

捜真小学校では、学年毎に一人のチャイルドを児童の献金によってサポートしています。6年生が卒業すると新1年生が支援を引き継ぎます。誕生日やクリスマスにはシール等を持ち寄ってカードを作って届けたり、成長報告や手紙を廊下に掲示して、『もう一人のクラスメート』の成長とともに喜んでいきます。

**学校法人梅光学院  
梅光学院中学校・高等学校**

本校ではルカによる福音書「善いサマリヤ人」の話にちなみ、月に1度の「サマリヤデー」で募金活動を行なっています。「隣人を自分のように愛する」ことを学び、実践することが目的です。4名のチャイルドからのお手紙、遠く離れた隣人としていつも楽しく拝読しています。

**学校法人横浜学院  
横浜女学院中学校 高等学校**

私たちは、発展途上国の子どもたちに健やかに成長できる環境や学びの機会を提供して下さる貴団体の活動に賛同し、支援に参加させていただいております。定期的な文通は、チャイルドの様子を知ることができ、毎回とても楽しみにしています。今後もチャイルドの成長のささやかな支えとなるよう活動を続けていきます。



## どんな想いで支援しているのですか？

設立から30年、私たちは多くのチャイルド・スポンサー、ドナーの皆さまに支えられ、今日に至るまで活動を続けることができました。毎月のご支援は言うまでもなく、事務所・在宅でボランティアとしての働き、電話・メール・手紙を通じたスタッフへの励まし、差し入れ等の優しいお心遣い、WVカフェやツアー、イベント等での交流、SNSでの投稿やコメント・いいね・シェア、様々なシーンでの皆さまとのつながりが、世界の子どもの笑顔と希望につながっています。これまでの歩みを支えてくださったすべての方に、心からの感謝と敬意を表します。全国のチャイルド・スポンサー、30名の皆さまから声をお寄せいただきましたので、ご紹介します!!

お名前・ニックネーム / お住まいの都道府県 / ご支援年数 右記のいずれか1つの項目についてコメント **A** チャイルド・スポンサーとしての喜び、嬉しかったこと **B** ワールド・ビジョンの好きなところ **C** チャイルドに願うこと



青野 勝子さま  
愛媛県 23年

**A** 最初はタイの女の子でした。会いに行った時、初め緊張していた彼女が別れ際にオカアサンと呼んで手を握ってくれました。嬉しくて肩を抱きながら「成長を見守り続けたい」と思ったのが忘れられない嬉しい思い出です。



Akemi さま  
佐賀県 24年

**B** 教育はもちろん自立支援に力をいれているWVJに共感し支援を始めました。現地の状況を目の当たりにして私の選択は間違っていないと確信しました。「何もかも」はできなくとも、誰かに「何か」はできる」この言葉のとおり今後も微力ながら協力したいと思っています。



石黒 芳樹さま  
神奈川県 9年

**A** 子どもたちへの思いを共有できる、たくさんの仲間と出会えたことです。WVカフェ、ボランティア感謝会、オフ会など、直接お会いしてお話するのがとてもうれしいです。



いっきさま  
京都府 10年

**A** 最初に支援したチャイルドは、モンゴルのダムディン君。彼に会った時の感動は今も心に残っています。チャイルドとの交流を通じ、いい感動をもらい、私自身も成長しているような気がします。



小倉 越子さま  
埼玉県 22年

**B** 同じ志を持つ仲間ができることです。地域で開かれるカフェやセミナー等では、世代を超えた多様な人達との出会いがあります。その場を超えた交流が続き、仲間を通じてさらに世界が広がっていきます。



ひこたんママさま  
京都府 15年

**A** 社会人になった時、自分の生活と世界の貧困地域との生活の差に何かできないかと思い、チャイルド・スポンサーになりました。みんな同じ人間、同じ生活の権利がある、そのためにできることをする、これがモットーです。



ひろやさま  
東京都 2年

**A** チャイルドの絵が、手紙が来るたびに上達していたり、自分の夢について手紙に書かれていたりしたとき、ああ、成長しているんだなあという実感を持つことができ、そう感じられるのが、一番の喜びです。



深作 利奈さま  
北海道 7年

**A** チャイルドからのお手紙が何よりの喜びです！私の方がたくさん元気をいただいているのではないのでしょうか。遠く離れたチャイルドとお互いを想い合い、チャイルドと共に私も成長できる素晴らしい経験をしています。



藤生 竹志さま  
静岡県 7年

**A** スポンサーとしての何よりの喜びは、子どもたちの健全な成長を確認できる瞬間です。成長記録などの写真を見る度に(大きくなったなあ)と驚き、それぞれが抱えている夢が少しずつでも実現することを切に願います。



藤尾 喜代子さま  
東京都 16年

**A** 一番嬉しいのはチャイルドからの手紙や報告でチャイルドの成長を知ることです。2007年にフィリピンで最初のチャイルドに会ったこと、2009年にタンザニアで2人目のチャイルドに会ったことは良い思い出です。



葛西 真由美さま  
千葉県 7年

**C** 支援地ツアーでチャイルドに会えてキャッチボールをした時、細い体からは想像出来ない力強さに安心しました。これから元気でたくましく育ち、将来は日本や外国に興味を持ってくると嬉しそうです。



和与さま  
大阪府 7年

**B** チャイルドとの交流が円滑になるよう、小さな疑問でも、親身に聞いて答えてくれるので、安心して何でも聞けます。また、定期的に活動報告があり、寄付金が具体的に役立っていることが実感出来る点も気に入っています。



上戸さま  
千葉県 6年

**A** チャイルド・スポンサーになって世界を知り、自分が恵まれた環境で生かされてきた事に喜びを感じました。教育を受けられるのは当たり前で、支援がチャイルドの人間形成につながる大切な活動だと実感しました。



倉本 岳さま  
神奈川県 3年

**A** マラソンチームの活動の参加費の一部を用いチャイルドの支援をしています。趣味のマラソンをすることが、自分だけでなくチャイルドのためにもなることにチームのメンバー一同とても嬉しく思っています！



須賀 良子さま  
東京都 15年

**A** エクアドルのファビオ君。3800mの高地に住んでいます。生まれつきの病気があり、毎週3時間バスに乗り病院へ！学校にも通い難いです。支援の終わった今、素敵な出会いと沢山のお手紙に感謝しています。



二見 美幸さま  
神奈川県 22年

**A** スワジランドでシャイなシビウェちゃんに会えたことに感激し、嬉しいです。成長の手紙と写真。異文化交流。気遣い溢れる暖かいスタッフや素敵なチャイルド・スポンサーとの出会いにも感謝！



理子さま  
大分県 9年

**A** スリランカの森を背景に語りかけてくれるチャイルドからのビデオレターが届いたことです。南の島らしい小鳥のさえずりも聞こえていました。遠く離れたスリランカとの距離が一気に縮まった気がしました。



マツキーさま  
東京都 2年

**A** 全てのチャイルドたちの笑顔や力強く生きていく姿に、心打たれ勇気付けられますし、手紙や支援ツアーというかけがいのない体験もでき、チャイルドたちに会った時の喜びは忘れられません。感動をありがとうございます！



松本さま  
新潟県 2年

**A** 夫婦でタンザニアの「我が子」に会いに行きました。多くの人に支えられ素直に育っている彼を見て心から嬉しくなりました！これからも責任をもって彼の成長を見守りたいと強く願わずにはられない訪問旅でした！



Mid.Tak. さま  
東京都 23年

**A** 子どもの絵や手紙、報告は見るだけでも嬉しいものです。実際に会ってからは、私への思いを詩や手紙に綴るようになり、一層の感激と喜びを与えてくれます。毎日写真を見て彼らの将来に思いを馳せるのも大きな喜びです。



つくば・駿ちゃんさま  
茨城県 12年

**C** 定年後に始めたスポンサー活動、最初のチャイルドはケニアの5歳のセトちゃん。以来12年間、パワーを有難う。ケニアで会えたのが何よりの思い出。WVJの卒業後はケニアの大地で、優しく遅く生き抜いてください。



TOMO さま  
埼玉県 9年

**C** 子どものいない私にとって、特定のチャイルドと繋がることは魅力的でした。子どもたちの笑顔を守り希望を持って生きて欲しいと思います。実際に会えた喜び、スタッフさんの真摯な思いを感じ2人の支援をしています。



中島 聖子さま  
東京都 10年

**A** 勉強したい子どもたちに少しでも学習するチャンスをとって始めたスポンサーシップです。毎年チャイルドの写真と手書きの絵が届きます。元々絵が上手なのですが、今年は英語の文字も入って成長が嬉しかったです。



名嘉真 愛さま  
沖縄県 10年

**C** 支援することで私の心は豊かになり、そして世界が広がりました。健康で楽しく育ち、将来なりたい夢を叶え、すてきな女性に成長するように。そしていつの日か会えますように。



濱舘 直史さま  
東京都 6年

**B** 特定のチャイルドとつながりを持てることで、支援地域のことをとても身近に感じることができるところが好きです。イベントを通じて様々な地域の現状を学ぶこと、共通の意識を持った仲間ができることも魅力です。



宮崎 宏さま  
岩手県 3年

**A** スポンサーになり初めて写真を見たときは本当に幼くてまた硬い表情でした。今は打って変わりとてハツラツとして写真に写っています。沢山本を読んでいつかは日本を訪れて欲しいなと願っています。そして私のことを思い出してくれたら嬉しいです。



守山 菜穂子さま  
東京都 3年

**A** 募金という身近な手段で、世界の問題の解決に役立っていることが嬉しいです。東京で働く私は、遠い国や、緊急災害地域に分け入っていくことはできませんが、WVJのスタッフに安心して任せているという感覚です。



山口さま  
埼玉県 6年

**C** 目標を持って欲しいと思います。夢は必ず実現する！という、強い意志を持って、頑張ってくれる様に応援したいです！私もチャイルドに負けない様に沢山の子も達を支援出来る様に努力したいと思います。



理江さま  
長崎県 7年

**C** 支援地ツアーに参加して、支援しているチャイルドと会えたこと、現地の活動の成果を目で見て知ることができたのが一番の喜びです。手紙のやりとりだけではわからない支援地の厳しい現状などを学ぶことができました。



若尾 守康さま  
岐阜県 10年

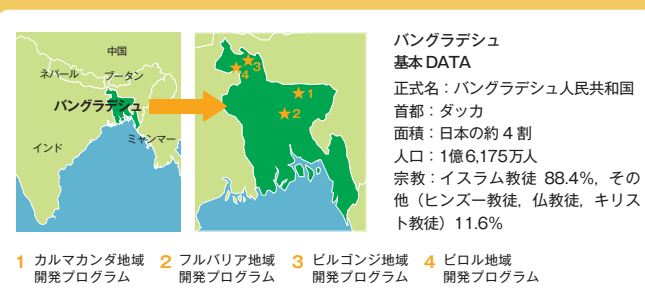
**A** 支援をすることで自分が幸せになります。支援(行動)は生きている意味や価値になります。チャイルド達が、より良い世界を創造してくれることを願い祈ります。世界の子も達に笑顔と希望が溢れますように！





## バングラデシュの支援と暮らし

ワールド・ビジョン・ジャパン (WVJ) がチャイルド・スポンサーシップを通して支援を届けている 21 カ国、45 の地域の中から、今回はバングラデシュの 4 カ所の支援地域をご紹介します。



## バングラデシュの課題と支援

### 貧困と子どもの栄養状態

#### 課題

国土の大部分がデルタ地帯で、サイクロンや洪水などの被害を受けやすいバングラデシュ。人口の約 3 割が貧困層と言われています。貧困地域では、食料不足による子どもの栄養不良も課題となっています。

#### 支援

縫製、手工芸品作りなどの小規模ビジネスや家畜飼育により、各家庭が農業以外の収入源を得られるよう支援しています。家畜から取れるミルクや卵は、子どもたちの栄養状態の改善にも役立ちます。また、母親たちを対象に、家庭菜園での野菜栽培や栄養ある食事の作り方を指導しています。これらの活動の結果、ビロル地域では栄養不良の 5 歳未満児の割合が 2014 年の 43% から 2016 年には 27.3% まで減少しました。



ミシンの提供を受け縫製の仕事を始めた女性（カルマカンダ地域）



栄養改善プログラムに参加する親子（フルバリア地域）

### 教育

#### 課題

大人たちの教育への理解が乏しいために、小学校入学後の出席率が低く、進級できない子どもたちが少なくありません。また、教師の教え方が適切でなく、生徒の授業内容の理解が不十分なことも課題です。

#### 支援

教師を対象とした研修や、PTA や地域住民を対象とした教育の重要性に関する啓発活動を行っています。また、子どもたちが小学校入学前に学習の基礎的なスキルを身につけるための就学前教育や、勉強が遅れている子どもたちへの補習授業にも力を入れています。



就学前教育センターで学ぶ子どもたち（ビルゴンジ地域）

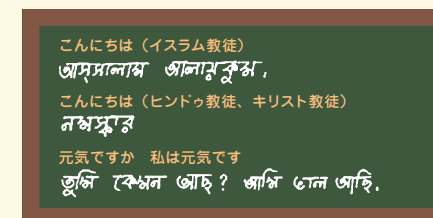
## バングラデシュの人と暮らし

### ベンガル語～4 人の学生が命をかけて守った言葉～

「バングラデシュ」という国名は、ベンガル語を話す人々が住む地＝ベンガルの国を意味します。1947 年に、東側（現在のバングラデシュ）と西側（現在のパキスタン）に分かれた国土を持つ国「パキスタン」としてイギリスから独立。その後、西側の公用語であるウルドゥ語を強要されることを懸念し、東側の母語であるベンガル語を守ろうと 4 人の学生が立ち上がりました。1952 年 2 月 21 日、その 4 人が凶弾に倒れると独立の気運が高まり、1971 年にパキスタンから独立してできた国が、現在のバングラデシュです。なお、この 4 人の学生が母語を守るために命を落とした 2 月 21 日は、その後ユネスコによって国際母語デーに制定されています。



ベンガル文字を学ぶ  
バングラデシュの子ども



バングラデシュでは右手で食事をします。  
左手は「不浄」とされているので食事の時は使いません

### 米文化～世界で 3 番目の米の消費量～

バングラデシュは一人あたりの米の消費量が世界で 3 番目に多い国です。日本人が 1 日に食べる米はおにぎり 3 個分（151g）ですが、ベンガル人は 1 日におにぎり 12 個分の米（599g）を食べている計算になるという統計データがあります。ただ、貧しい家庭では野菜や魚などの副菜が十分ではないため、栄養のバランスが問題になっています。子どもたちが米だけでなく、成長に必要なたんぱく質や微量栄養素も摂取できるよう、WV でも様々な活動を行っています。



開発事業第 2 課 平本実  
（2017 年 3 月までバングラデシュに駐在）

#### 担当スタッフから

2015 年から外国人襲撃事件が続いたバングラデシュ。WV をはじめ、援助団体は以前にもまして高い安全意識をもって仕事を続けています。バングラデシュは、頻発する自然災害に加え、隣国ミャンマーからの避難民の流入もあり、まだまだ支援ニーズが高い国です。貧困に苦しむ人々の割合を減らし、子どもたちが正しい知識とスキルを身に着けることによって、社会の中に平和を作り出すべく、これからも支援活動が続けていきます。



遺贈、遺産や相続財産  
などのご寄付

## 末期がんの宣告を受け、亡くなる 4 日前に 妻が残したことを受け継いで

遺贈のご寄付により、  
子どもたちが将来への  
希望と夢を持つことができます

WVJ では、遺贈、遺産・相続財産からのご寄付をお受けしています。大切な財産を託してくださった方のご遺志、愛する方の想いを受け継ぎご寄付くださるご家族のお気持ちを大切に、お考えにそった事業に活用させていただき、子どもたちの豊かな未来へとつないでいます。相続財産をご寄付くださった神奈川県在住の男性、I 様の声をアンケートよりご紹介します

### 相続財産をご寄付くださった I 様

妻は、日頃から自分の収入を使って色々な福祉関係や経済的な支援を必要としている世界の子どもたちへの支援を陰ながら続けていました。

回復の見込みの無い末期癌の宣告を受け、亡くなる4日前に病床で「自分の預金や生命保険を、学校も満足に無いような世界の貧しい国に、子どもたちがひとりでも多く学校に行けるように使って欲しい」と私に言い残しました。

息子と娘にもその事を伝え、お母さんの心を応援し生かすために、自分たちもそれに加えて献金し、少しでもより充実した支援が出来るようにしよう、と家族で話し合っていました。

十分な支援とは言えませんが、とにかく一人でも多くの子どもたちが、学校で学ぶ喜びを自分のものにできるように、と願ってやみません。

それによって子どもたちが、毎日、明るい希望をもって学校に、家庭に、地域社会に生きることができるよう、と。

(アンケートより抜粋)

I 様のご寄付は、大切な思いを受け継ぎ、現在、ルワンダとヨルダンでの教育支援事業のために活用させていただいています。

「遺贈・相続からの寄付」について、詳しくは同封のちらしをご参照ください。または詳しい紹介冊子をご用意しております。

資料のご請求・お問い合わせ TEL: 03-5334-5351 ( 平日 9:30-17:00)

My Dreams Come True  
夢をかなえたチャイルド  
カンボジア



## 困難を乗り越え、夢を叶えたカンボジアのチャイルド ～与えられる側から、与える側へ～

カンボジア南部の貧しい地域で、5 人の兄弟と両親のもとで育ったシネット青年。子どもの頃にチャイルド・スポンサーシップの支援を受け、内戦で破壊された小学校の校舎を直したり、井戸を作ってくれるワールド・ビジョンのスタッフを間近で見て育ちました。

「中学校を卒業したら、家族のために働こう」と思っていたシネット青年の人生を変えたのも、ワールド・ビジョンのスタッフでした。「家族を助けたいなら、大学で勉強したほうがいい」。そう励まされたシネット青年は、次第に「大学で勉強して、WV スタッフになりたい!」という夢を持つようになり、その村で初めて高校へ進学し、さらに奨学金を得て王立ポンペン大学に進学しました。優秀な成績をおさめ韓国への留学も決まった、そんな矢先、シネット青年が心から愛していた父親が、事故で大怪我を負います。家族の暮らしを支える

ために、夢をあきらめて大学を中退し、民間企業に就職せざるを得なくなりました。突然、絶望のどん底に落ちたような感覚を拭えず、自殺を図ろうとしましたが、友人に止められ、「父の治療費を払い、弟が勉強を続けるためには、自分が働かなければ」という想いで、生き続けることができたそうです。

その後、ワールド・ビジョン・カンボジアがスタッフを募集していることを知ったシネット青年は思い切って応募し、2011 年、ついに子どもの頃からの憧れだった「ワールド・ビジョンのスタッフ」になりました。現在は、プログラム・マネージャーとして、洪水で学校が年に4か月しか開かれないこともあるボレイ・チュルサール地域にて、補習授業を行う子どもクラブを 17 か所立ち上げたり、足りない教材を提供するなど、子どもたちの教育環境を整備することに注力しています。

## ☕ WVカフェに参加してみませんか？WVスタッフが、あなたの街を訪れます！

「支援地域の子どもたちの様子がわかって嬉しい!」と好評のイベント「ワールド・ビジョン・カフェ (WV カフェ)」を全国各地で開催しています (参加費無料)。支援地域の子どもの様子や活動状況を写真や動画を交えて報告します。参加ご希望の方は、事前にホームページ、Eメール、お電話にてお申込みください。(締め切りは開催日の3日前です)

2017年8月 WV カフェ in 神奈川の様子

**京都**  
日時：2018年4月14日(土)14:00～16:30  
会場：京都教育文化センター 202号室  
京都市左京区聖護院川原町4-13

**兵庫**  
日時：2018年4月15日(日)14:00～16:30  
会場：神戸国際会館 8階 802・803号室  
神戸市中央区御幸通8丁目1番6号

**愛知**  
日時：2018年5月19日(土)14:00～16:30  
会場：ウィルあいち 愛知県女性総合センター 2階 特別会議室  
名古屋市中区上区下区 1番地

**静岡**  
日時：2018年5月20日(日)14:00～16:30  
会場：浜松市福祉交流センター 2階 21会議室  
浜松市中区成子町140-8

**北海道**  
日時：2018年6月2日(土)14:00～16:30  
会場：北海道立道民活動センター  
がでる 2.7 10階 1030会議室  
札幌市中央区北2条西7丁目

## 🚢 支援地訪問ツアーのご案内

2018年8月に「地球あちこち～ウガンダを知る旅」を予定しています。ナラウェヨ・キシータ地域開発プログラム(ADP)は、プロジェクト終了前にツアーで訪問する最後の機会です。チャイルドに会いにご一緒に行きませんか？

### ウガンダ

訪問先： ナラウェヨ・キシータ ADP  
キルヤンガ ADP  
期間(予定)：2018年8月

旅行期間、募集人数、参加費、旅行会社の情報は準備中のため、決まり次第、ホームページ等でお知らせいたします。  
※訪問国の治安状況や感染症の影響等により、ツアーが中止または変更となる場合があります  
※定員に達しましたら募集を締め切らせていただきます

### WV カフェ・ツアーについてのお申込み・お問い合わせは

◎コンタクトセンター(支援者窓口)  
TEL：03-5334-5351(平日9:30-17:00) Eメール：dservice@worldvision.or.jp

## ✉ メールアドレスをご登録ください！

ご支援いただいているチャイルドや支援地域から動画が届いています！メールアドレスをご登録いただくと、動画など支援地域の最新情報をお送りできますので、ご登録がまだの方はぜひ事務局までご連絡ください。

### 登録方法

Eメールの件名に「メールアドレス登録」と明記し、  
**dservice@worldvision.or.jp**へ、

- 1 パートナー番号(またはご登録のお電話番号)
  - 2 お名前
  - 3 登録希望のメールアドレス
- をご連絡ください。

メールアドレス  
登録してね！



## ≡ 重要なお知らせ ≡

### チャイルドへのプレゼント規定変更のお知らせ

2018年1月1日から、日本郵便株式会社による国際郵便の取扱内容に変更がありました。この変更に伴い、チャイルドへの手紙に同封いただけるプレゼントは書状のみになりました。詳しくは別紙ご案内をご一読ください。大切なご支援金を有効に活用するために、皆さまのご理解とご協力をお願いします。

## WVJ 30 周年フィナーレイベント「つながろう、子どもたちのために」



日時： 2018年9月17日(祝・月) 時間は未定。決まり次第、HP等でご案内します。  
会場： 淀橋教会 (〒169-0073 東京都新宿区百人町1-17-8)  
内容： ご支援くださっている皆さまに支援の成果と感謝をお伝えしたい! その一心です。スペシャル・ゲストの登壇も予定していますので、ぜひ今からご予約ください!

申込み：詳細が決まり次第、HP等でご案内します。